

本日のテーマ：長期的技術の予測

本日は新製品・新技術の開発問題を取り上げてみます。機械分野の開発の場合、1つの新製品を生み出すには平均約10ヶのアイデアを粗上に載せる必要があると云われます。しかも新製品が経営的に成功と認定される「従来品より高い利益率」を確保できる可能性は約50%、リスクは少なくはありません。ただ、現時点での主力製品が衰退期を迎える前に、次期の主力製品候補を確保したいと考えるのは当然のことであり、必要事項でもあります。

「開発のタイミングと規模」

では、どのようなタイミングと規模で、新製品を開発、投入するべきなのでしょう？これを考える際の基本として、財務評価の3要素、①収益性、②安全性、③成長性の中の「成長性」の要素として評価するケースが多いようです。例えば、比較的製品ライフサイクルが長い業界の場合、直近5年間で投入された新製品の売上構成比率25%以上を基準値とし、この数値を割り込む場合は、従来製品を見直し、不採算なものから順次販売停止し、新製品発売に切り替えるとの手法です。

大きな組織の場合、単に、全社の数値のみではなく、事業部単位でこの数値管理をしている所もあります。

「長期的な技術進路の選択」

製造業にとって、将来的に発展する分野に自社の強みを造り出す戦略は、極めて重要なものです。

まず、その第一歩は「将来的に発展するであろう技術分野」の見極めです。どのように、その分野を見つけていくべきなのでしょう？

その代表的手法を下記に纏めてみます。

- ①国の科学技術政策の重点事項調査
フォーカス21
- ②科学技術の中長期発展に係る俯瞰的予測調査
文部科学省 科学技術政策研究所
- ③オピニオンリーダー会議
- ④特許トレンド調査
- ⑤学会、学会誌調査

将来の技術を予測するには、単に現技術の延長線上を考えるのみでなく、①社会構成員がどのような生活を望み、どのように感性が変化しそうか、

②科学者達の興味を惹きつける分野は何なのか等、現在の日本では、単に生活の必需品を対象とすることなく、「感性の変化」や「興味の分野」等、やや広い視点から見てゆく必要があります。

これは、着想の「ニーズ」思考、「シーズ」思考のスター

ト点です。近年の「シーズ」思考の代表は「インターネットサービス」があります。インターネットと云うハードが生まれたが故に、それを利用した多くのサービスが誕生しています。

「科学技術の中長期発展に係る俯瞰的予測調査」

この調査は文部科学省が1970年代初めから5年毎に実施している調査で、平成15年度には第8回の調査が実施されています。約4500人の各分野専門家を対象にし、デルファイ法により今後30年の技術に関する意見が集約されています。

「オピニオンリーダー会議」

特定の分野への意見集約としては、そのテーマに特定した「オピニオンリーダー会議」も一手法です。

詳細は下記を参照下さい。

- 1) フォーカス21

http://www.meti.go.jp/policy/innovation_policy/power_point/hpn/f21n/f21set.pdf

- 2) 科学技術の中長期発展に係る俯瞰的予測調査

<http://www.nistep.go.jp/achiev/abs/jpn/rep082j/pdf/rep082aj.pdf>



中上義春画像
白浜エネルギーランド
似顔絵ロボット作品
(1990年9月)

(有)関西中小企業研究所
代表取締役 中上義春 (Nakaue Yoshiharu)
(中小企業診断士)

大阪府泉南郡岬町淡輪 1694-85

TEL/FAX 0724-86-5182

E-mail : bkaio518@rinku.zaq.ne.jp

<http://www.rinku.zaq.ne.jp/bkaio508/01.htm>
